

民・国連携でニホンジカ食害防除対策検討会を開催

【岐阜森林管理署・森林技術・支援センター】

11月5日、七宗町上麻生地区森林共同施業団地に設定されているケーススタディ地区において、地域の林業関係者を対象とした民国連携によるニホンジカ食害防除対策検討会を開催しました。

ニホンジカによる農林業への被害は、シカの生息範囲の広域化捕獲事業者の減少を背景として、より深刻化しています。国有林においても、伐採跡地や幼齢造林地などはニホンジカが集まりやすく、植栽された苗木への被害の広がりが主伐・再造林への大きな障害となっています。

検討会では、岐阜県森林研究所から大洞智宏専門研究員を講師にお招きし、ニホンジカ防除の事例等について講義をいただきました。また、岐阜森林管理署からは、効率的な捕獲にむけた実践例を紹介し、その後、森林技術・支援センターが七宗国有林内に設置しているシカ対策試験地を視察するとともに、参加者各位の日頃の取組などについて、情報交換を行いました。

ニホンジカ食害防除対策には決定打といえるものがないのが現状ですが、「防除」と「捕獲」、いわば守りと攻めの効果的な組み合わせによる取組を模索していくことも必要です。今後も、民国の関係者が知恵を出し合い、地域ぐるみでニホンジカ対策を推進していくことが重要だと考えます。



シカ対策試験地でシカ柵を見ながら説明

ケーススタディ地区で技術指導を伴う現地検討会

【岐阜森林管理署】

ケーススタディ(事例研究)地区に指定されている七宗町上麻生地区森林共同施業団地では、民国連携による勉強会等の取組を重点的に行っています。

11月27日に、国有林をフィールドとして提供し、民間主導による現地検討会が開催されました。この現地検討会は、福井県の企業が開発した「グラップル脱着式バケット」を用い、効率的な路網開設の検討を行うもので、主催は、国有林の立木販売購入者である岐阜県森林組合連合会です。

前述の企業の協力により現地へ機体とバケットを実際に持ち込み、効率的な路網開設、補修にかかるデモンストレーションが行われました。日頃、路網開設に携わっている参加者からは、「製品の耐久性はどの程度か」「グラップルメーカー別の対応はどうか」といった実践的な質問が、活発に出されていました。

今後も、当署では、ケーススタディ地区における地域林業の発展に向けた取組を、重点的に実施していきます。



路網の開設と補修の仕方を見学